

リオンの

風

第101期 第2四半期
事業報告書

2021.4.1-2021.9.30

CONTENTS

トップインタビュー	1
特集① クリーンルームに潜入！	5
特集② 新任社外取締役インタビュー	7
特集③ RION Technical Journalを 創刊！	9

トピックス	10
株主ひろば	11
製品別の概況	12
会社案内	13
株主メモ	14
音を科学する	裏表紙



代表取締役社長

しみず けんいち
清水 健一

新型コロナウイルス感染症の
影響を受け続けていますが、
微粒子計測器事業が業績を牽引し、
通期は過去最高の売上高を見込みます。

Q1 上期の業績と通期の見通しについて、
お聞かせください。

昨年の上期との比較では基本的に全事業が増収増益となりました。

ただし、好調な販売が続く微粒子計測器事業においては、事業拡大に伴う設備投資や経費の

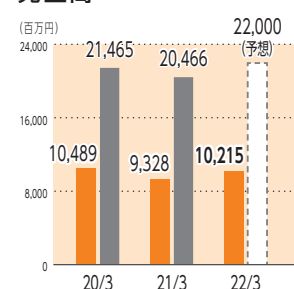
増加により若干の減益となっています。微粒子計測器事業の減益は将来の成長のための減益と言えますので、私は「良い減益」と呼んでいます。そういう意味で微粒子計測器事業は問題ないのですが、他の事業の増収増益には少なからず問題があると考えています。それは、対前年比では増収増益なのですが、新型コロナウイルス感染症(以下 コロナ)の流行前の前々年との比較においては減収減益であるからです。特に医療機器事業においては、緊急事態宣言が発出されるたびに補聴器をお買い求めになるお客様の来店者数が減少し、売上高が大きく落ち込みました。増収増益と言っても、コロナの影響度合いが昨年よりも今年の方が少なかったという話に過ぎ

ず、トレンドとしてはコロナの影響を受け続けているのです。

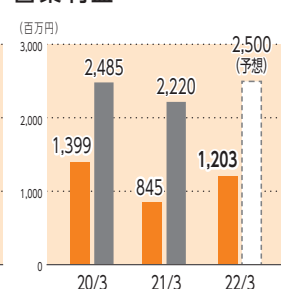
とはいえ、今年度後半に入ると様相が変わると考えています。というのも、10月以降は感染拡大の鎮静化が期待できるからです。ワクチン接種率の向上を背景に、コロナの鎮静化によって売上高は回復し、下期だけを見れば、前々年の下期の業績を上回ることを期待しています。世界的な半導体不足に伴う半導体製造設備への投資拡大により、微粒子計測器の需要がさらに増加することと合わせて、通期の見通しに関しましては、過去最高の売上高を更新するものと予想しております。

連結財務ハイライト ■ 第2四半期累計 ■ 通期

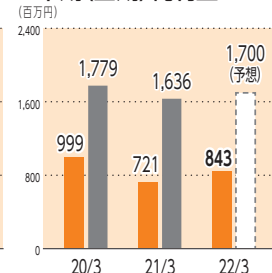
売上高



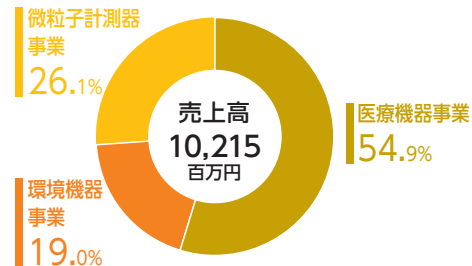
営業利益



親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益



事業別売上高構成比



■ 第2四半期業績サマリー

純資産	24,143
総資産	31,113
営業キャッシュ・フロー	1,688
投資キャッシュ・フロー	△421
財務キャッシュ・フロー	△264

(百万円)

売上高	10,215
営業利益	1,203
経常利益	1,235
親会社株主に帰属する 四半期純利益	843

■ 通期業績予想

(百万円)

売上高	22,000
営業利益	2,500
経常利益	2,550
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,700

Q2 コロナの影響を受けて、改めて当社グループの強みだと感じられたことにはどのようなことがありますか。

当社グループの強みは、ずばり対面販売にあります。計測器の販売も基本的にはお客様に直接お会いして対面で行いますが、何と言っても対面販売の代表は、補聴器販売の現場です。対面販売は当社グループが得意とする方式であり、お客様の悩みを直接聞き、その場で補聴器を最高の状態に調整して差し上げられることこそが、私たちの強みであり、真骨頂であるのです。しかし、コロナ禍では人と人が対面すること自体が困難になり、対面販売という強みが十分に発揮できなかったからこそ、コロナ前と比較して減収となってしまったのです。

そこで、感染症の流行があっても当社グループの強みを発揮できる方法がないか、様々な検討を重ねた結果、ひとつの方法にたどり着きました。それは、「遠隔フィッティング」という補聴器の調整方法を開発することです。これは、お客様が来店されなくても、販売店の専門家がインターネットを通じて調整をして差し上げるというもので

す。お客様はご自宅で、補聴器をインターネット回線につなぐだけで、来店した時と同じように補聴器の調整ができてしまうという方式です。現在、最新のテクノロジーを駆使し、当社グループの強みを活かすことを目指して、遠隔フィッティングの実現に向けて開発を続けているところです。

Q3 新たに就任した社外取締役に期待することをお聞かせください。

社外取締役の役割は2種類あると考えています。ひとつは、社外からの目線で当社が行う事業遂行の状況をチェックして、判断の是非や方法の善し悪しを監督してもらうことです。もうひとつの役割は、社外取締役個人の経験や知見に基づいたアドバイスを当社の取締役に対して行ってもらうことです。

当社には80年近い歴史の中で培われた特有の文化があり、取締役にはその文化の影響を受けた「当社の常識」が備わっているものと考えられます。しかし、往々にして特定の文化に染まった思考パターンには、世間の常識とかけ離れた「特定の常識」が育つことがあります。独自性と言えば聞こえは良いのですが、唯我独尊の状態に陥ってはならないと考えます。

そこで必要とされるのが社外取締役の2つの役割です。当社の社外取締役には、社外からの視点でなければ気が付かなかった問題点や当社と世間の常識とのギャップを指摘されるなど、従来からその存在価値を大いに発揮してもらっています。

今期新たに就任された社外取締役のお二人にも、同様の活躍を期待すると共に、特に女性の視点から男性とは異なるダイバーシティを発揮してもらうことを期待しています。

Q4 株主様に向けてメッセージをお願いいたします。

当社の企業理念は「リオンは全ての行動を通して人へ社会へ世界へ貢献する」というものです。

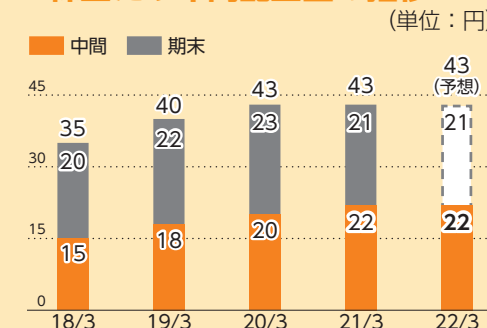
株主還元に関する基本方針

当社は、株主様に対する利益還元を経営の重要政策のひとつと認識しており、継続的な配当の維持と業績に応じた配当水準の向上に努めることを基本方針としております。内部留保金の使途につきましては、企業価値の増大を図ることを目的として、中長期的な事業拡大のため、研究開発・製造設備等に戦略的に投資し、長期的な競争力の強化を目指してまいります。なお、剰余金の配当は、中間と期末の年2回実施しております。

当社グループで働く社員は全員この理念を念頭におき、日夜業務に励んでおります。

しかしながら、残念なことに昨今のコロナの影響により、当社とお客様との物理的距離が遠くなってしまい、社会貢献の理念を実践することが困難な状況に置かれていることを感ぜずにはおられません。株主の皆さまにおかれましては、当社ならびに当社社員が置かれた状況をご賢察の上、アフターコロナにおける当社のリボーン(再生)に向けた取り組みを暖かく見守っていただければ幸いです。コロナ後には、従前にも増して会社を成長させることを社員共々お約束いたします。

1株当たり年間配当金の推移



① 微粒子計測器の製造に欠かせない クリーンルームに潜入！



上期において過去最高の売上高を更新した微粒子計測器事業。製造に不可欠なクリーンルームを増設しました。関係者以外はめったに入ることのできない室内を特別にご紹介します。



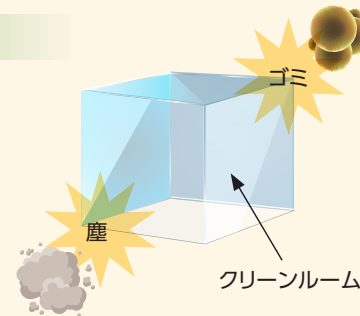
液中微粒子計測器 KS-19F



クリーンルーム入口

クリーンルームとは

空気中に浮遊する粒子を管理し、空気がきれいな状態を維持した空間です。この空間によって、製品にわずかな塵やゴミが付着するのを防ぎます。微粒子計測器は空気中や液体中の非常に小さな粒子を検出する精密機器であるため、製造にはクリーンルームが不可欠です。



注目ポイント ① 徹底的に塵やゴミを持ち込ませない

クリーンルームの外から塵やゴミが入り込むことがないように室内ではクリーンウエアを着用します。また、入室前には必ず手洗い、エアシャワーを通過することで室内に持ち込みません。

エアシャワーは台風より強い風が四方八方から吹いて塵やゴミを落とします。



エアシャワーで塵やゴミを除去

注目ポイント ② 高性能フィルターで清浄化された空間

外から取り込んだ空気を高性能フィルターを通して、クリーンルームの上部から室内に流します。床には規則的な穴が開いており、床下を通して排気されます。常に空気の流れを発生させ、室内の圧力や気流の分布などを調節することで、きれいな空間を維持します。



室内の清浄度を定期的に測定

注目ポイント ③ 最先端の微粒子計測器を製造

半導体業界をはじめとする様々な業界で品質管理のために微粒子計測器が使用されています。半導体などが高性能化するにつれ、より小さな粒子の検出が求められます。その需要に応えるために、製造・サービス体制を拡充しました。



微粒子計測器の製造現場



微粒子計測器事業部
副事業部長

はすみ としゆき
蓮見 敏之

新型コロナウイルス感染症によって、社会全体が打撃を受けているなかで、テレワークに代表される通信機器や自動運転に欠かせないセンサなど半導体需要の活況は続いています。

このたび、微粒子計測器事業の更なる成長を見据えて、設備投資を行いました。お客様のニーズを的確に捉え、価値の高い製品の提供を続けてまいります。



2 新任社外取締役インタビュー

2021年6月24日開催の株主総会にて、新たに2名の社外取締役が選任されました。
これまでの経歴と今後の抱負について語っていただきました。



社外取締役 はまだ きくこ
濱田 喜久子

Q. ご自身の経歴についてお聞かせください。

1992年に米国留学を終えて以降、一貫して医療機器関連の仕事に携わってきました。ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社に入社したのは2000年。米国への赴任等を経て、シンガポールでアジア地域全体のマーケティング統括を担いました。特に注力したのは、当時、大きな成長が期待されていた中国及びインド向けの製品開発や、長期的な成長を実現するための組織づくりです。アジア地域の代表として、組織ビジョンや成長計画の策定、事業買収等に深く携わったことで、より俯瞰的に物事を見ることが出来るようになりました。

今も昔も、常に変化を続けるビジネス環境において大切にしなければならないことがあります。私が長年にわたって意識してきたことは、変化の影響をしっかりと見極め、組織のミッションや目標を具体的な数値に落とし込み、それらを確実に推進するための強い組織を作ることです。シンガポールから帰国後は同社のバイスプレジデントに着任し、ボードメンバーとして全社の経営課題に貢献してきました。

Q. 社外取締役としての抱負をお聞かせください。

外資系企業に共通する特徴として、財務コントロールの巧さが挙げられます。前職であるジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社は、その点において卓抜した強みを持つ企業でした。コア・バリューである「我が信条(Our Credo)」に集約されるように、企業体としての存在価値や社会貢献への姿勢を強く意識した会社でもありました。

私は、企業にとって大切なものは2つあると考えます。絶えず変化を続けるビジネスの潮流を的確に捉え、社会へ確かな価値を提供し続けること。そして企業体としての力を高め、長期的な成長を達成し続けることです。今後は社外取締役として客観的な立場で経営に参画させていただきながら、中長期の成長戦略やKPI(重要業績評価指標)等の策定、海外市場での成長推進など、リオンのさらなる発展に貢献していきたいと考えています。

Q. ご自身の経歴についてお聞かせください。

2010年3月に九州大学大学院博士課程(工学)を修了し、文部科学省の研究員(日本学術振興会特別研究員)として独立行政法人産業技術総合研究所、一般財団法人空港環境整備協会* 航空環境研究センターにそれぞれ3年ずつ研究員として勤務したのち、九州大学に1年、ベルギーの Gent 大学に1年勤務しました。もともと大学の教育職への希望はなく、研究がメインの業務に携わりたいと思っていました。ところが、音響学専門の研究職はなかなかなく、Gent 大学在籍中に神奈川工科大学の公募に応募したことで、情報学部情報メディア学科にて教鞭をとる現職に至ります。当時、羽田にあった航空環境研究センターでの海外調査・航空機騒音の情報公開などの研究業務の経験は、大学教員になってからもとても貴重で大きな経験になっています。

現在は、音響学入門、音声コミュニケーション概論、スポーツ音響学概論、応用音響工学特論に加えて情報系科目(プログラミングによるサウンド解析演習など)を教えています。研究室には学生が27名おり、メインにしているトピックは超高周波音(空中超音波)です。この研究は英国サウサンプトン大学の研究所(ISVR)、ドイツ物理工学研究所(PTB)、ベルギーの Gent 大学などの国際的な研究機関と共同で行っています。その他スポーツ音響、音による調理支援、環境騒音の計測と評価、厚木市と共同で



社外取締役 うえだ まり
上田 麻理

防災無線放送の計測と評価、聴こえ支援・視覚障害者支援研究、騒音による睡眠影響調査と騒音感受性に関する研究、音の教育支援ツールの開発など基礎研究から応用研究まで広く学生と研究を行っています。

Q. 社外取締役としての抱負をお聞かせください。

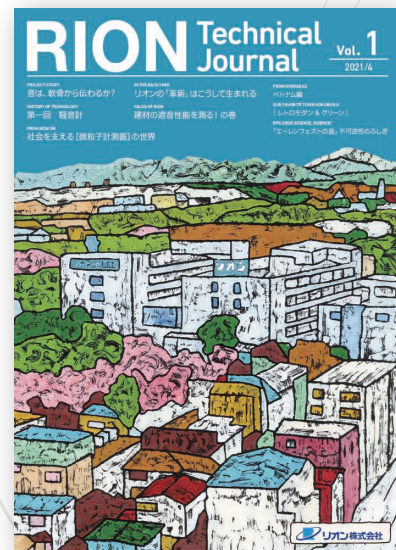
「音があるところには人がいる・人がいるところには音がある」。音と人の関わりを大切にしながら、国際的な動向を踏まえつつ広い視野を持ち、リオンと音響業界に誠実かつ着実に貢献できればと考えています。

*2018年に一般財団法人空港振興・環境整備支援機構へ名称を変更しております。

リオン テクニカル ジャーナル

2021年4月、リオンの技術情報誌「RION Technical Journal」を創刊しました。
本誌の魅力や編集責任者からのメッセージを、株主の皆さまにご紹介します。

リオンの先進テクノロジーを伝える技術情報誌



製品の開発ストーリーや担当者の想いを余すところなく掲載。リオンが誇る技術のエキスパートたちへの取材を通して、本誌ならではの厳選記事をお届けします。

知られざる製品開発の舞台裏を追う「プロダクト開発ドキュメンタリー」、技術開発が切り開く未来をテーマにした「リオンの[いま]と[これから]」、リオンが本社を置く国分寺市を社員がリレー形式で紹介する「ブラリ、国分寺巡り」など、魅力的な記事が盛りだくさん。

▼リオンテクニカルジャーナルは
こちらからお読みいただけます

<https://www.rion.co.jp/technicaljournal/>



編集責任者からのメッセージ

リオンがいまできること、そしてこれからの未来に向けて私たちが実現したいこと。それらをより多くの方々に知っていただくために、RION Technical Journal は生まれました。

本誌の制作には非常に多くの社員が関わっており、私たちリオンの溢れんばかりの情熱が「ギュッ!」と詰まっています。ぜひ楽しみながらお読みいただければ、これ以上の喜びはありません。



技術開発センター
技術資料課
おかもと のぶひさ
課長 岡本 伸久

1 「プライム市場」への申請を決議

東京証券取引所(以下 東証)は、「一部」「二部」「マザーズ」「ジャスダック」から成る従来の市場区分を見直し、2022年4月より「プライム」「スタンダード」「グロース」の3市場への再編を予定しています。

当社は、新市場区分における上場維持基準への適合について、東証より一次判定結果を受領し、プライム市場の基準適合を確認しました。この結果を受け、7月30日の取締役会において、プライム市場を選択し、東証に対してその旨を申請することについて決議しました。

「プライム」の名に違わず、同市場の上場企業には、多くの機関投資家の投資対象となりうる時価総額規模と株式の流動性が求められ、コーポレート・ガバナンスについても一層高い水準が要求されます。当社は、今後ともコーポレート・ガバナンスの充実を図るとともに、長期的な企業価値の向上を目指します。



2 リオネット補聴器ブランドサイトをリニューアル

補聴器をもっと身近なものに感じてほしい。聞こえに関心を持つ多くの人々のニーズにもっと応えたい。私たちはそうした想いを込め、リオネット補聴器ブランドサイトを2021年5月にリニューアルしました。

特にこだわったのは、スマートフォンやタブレットの普及に伴う一人ひとりの異なる閲覧環境への対応や、聞こえに関する疑問や悩みに広くお応えできる情報量です。ウェブサイトの閲覧パターンや閲覧時間、頻度に合わせて、リアルタイムに必要な情報を提供します。また、製品を取り扱う店舗の所在地や営業時間、サービス内容などを条件で絞り込み、いつでも検索できるなど利便性を向上させました。

今後も補聴器をお使いの方のみならず、聞こえに不安がある方やその周囲の方に寄り添った情報提供を行ってまいります。



リオネット補聴器ブランドサイトはこちら

<https://www.rionet.jp>



株主ひろば

「株主ひろば」は、株主の皆さまに役立つ情報やリオンの旬な話題をお伝えするコーナーです。昨年において実施したアンケートのご質問にお答えします。
2,120名もの株主様からご回答をいただき、厚く御礼申し上げます。



リオンは
どのような
地域貢献活動を行って
いますか。



経営企画本部 人事・総務部
おおしま じゅん
副部長 大島 淳

本社や事業所の近隣清掃、

全国交通安全週間中の活動など、複数の
地域貢献活動を実施しています。

国分寺市にある本社では、30年以上前から小学生を対象とした
会社見学に取り組んでおり、毎年1,000名近くの子供たちが
訪れています。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により、
やむを得ず中止となりましたが、今年はWEB会議システムを用いて
バーチャル形式で開催しました。補聴器をはじめとする製品や当社の
仕事内容を、クイズや動画を交えてわかりやすく紹介。

子供たちからは驚きの声とともに多くの質問があり、興味関心を
持って話を聞いてもらえたと感じています。

引き続き、地域の皆さまとの関わりを大切にしながら
活動を行ってまいります。

地域貢献活動の 一例



本社周辺の近隣清掃



バーチャル見学会

第101期第2四半期・製品別の概況

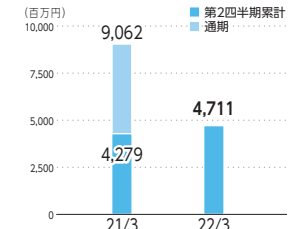
Second quarter of the 101st term by product overview

補聴器



「リオネット補聴器」のブランド名で親しまれるリオンの補聴器は、高齢化の進展に伴う難聴者層の増加などを背景に、潜在成長力の高い補聴器市場において、お客様のニーズに寄り添った先進技術で業界をリードしています。

上期の業績は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための外出自粛により、補聴器販売店への来客数が伸び悩みましたが、前年同期ほどの落ち込みには至りませんでした。

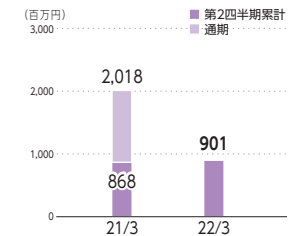


医用検査機器



医療の考え方が、治療から予防、さらに健康医学へと広がるなか、「検査」の役割はますます高まり、機器の多様化が進んでいます。大学病院の臨床検査や、人間ドックの聴力検査など、医用検査機器は多くの医療現場のニーズに応えています。

上期については、オーディオメータの販売が堅調に推移したことにより、前年同期の売上を上回りました。

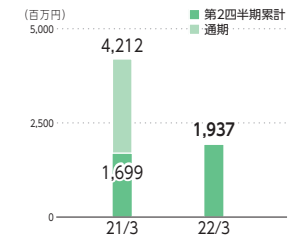


音響・振動計測器



騒音計、振動計、地震計など、環境行政や産業の多彩なニーズにきめ細かくこたえる製品を提供し、国内外の環境・産業計測市場を支えています。

上期の業績は、顧客となる民間企業の設備投資が回復傾向にあるほか、官公庁などの予算案件が安定的な販売につながりました。また、都市部を中心とした建設工事が引き続き活況であることから騒音計や振動計が堅調な販売となったため、前年同期と比べて増収増益となりました。

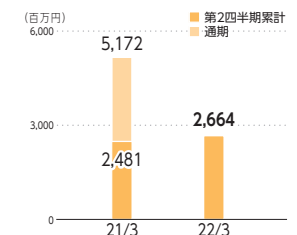


微粒子計測器



微粒子計測器は空気や液体の中に浮遊する微粒子を計測しています。高い清浄度管理が求められる、半導体などの精密機械や医薬品、食品の製造現場では、微粒子計測器による微粒子管理が行われており、ユーザーからの高い信頼を得ています。

上期は、深刻な半導体不足が続くなか、活発な設備投資が継続しており、半導体製造工場で使用される液中微粒子計の販売が好調だった前年同期をさらに上回る過去最高の売上高を更新しました。



会社案内 (2021年9月30日現在)
Corporate Data

会社概要

商 号 リオン株式会社
本 社 東京都国分寺市東元町三丁目20番41号
創 立 1944年6月21日
資 本 金 20億3,168万円
従業員数 連結932名、単体502名(2021年3月31日現在)
事業内容 ○ 医療機器 ・ 補聴器
・ 医用検査機器
○ 環境機器 ・ 音響・振動計測器
○ 微粒子計測器 ・ 微粒子計測器

株式情報

発行可能株式総数	32,000,000株
発行済株式総数	12,309,100株
総株主数	5,031名

大株主

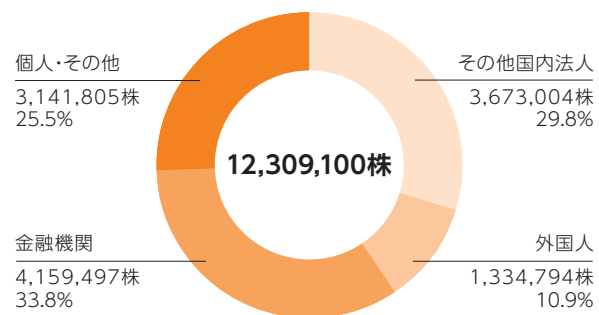
株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
一般財団法人小林理化学研究所	3,130,700	25.47
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,382,700	11.25
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	1,234,200	10.04
リオン取引先持株会	441,300	3.59
株式会社みずほ銀行	210,000	1.71
三井住友信託銀行株式会社	200,000	1.63
リオン従業員持株会	185,500	1.51
住友生命保険相互会社	178,300	1.45
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC SECURITIES/UCITS ASSETS	177,200	1.44
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/ABERDEEN STANDARD SICAV I CLIENT ASSETS	171,000	1.39

(注) 持株比率は、自己株式17,293株を控除して計算しております。

取締役および監査役

代表取締役社長	清水 健一
常務取締役	岩橋 清勝
取締役	若林 友晴
取締役	加藤 公規
社外取締役(独立役員)	築野 元則
社外取締役(独立役員)	河口 正人
社外取締役(独立役員)	濱田 喜久子
社外取締役(独立役員)	上田 麻理
常勤監査役	山内 和臣
社外監査役(独立役員)	石谷 勉
社外監査役(独立役員)	佐久間 善弘

所有者別株式分布状況(持株数)

株主メモ
Stock Information

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
住所変更、单元未満株式の 買取等のお申出先について	株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。 なお、株券電子化の際、株券を証券会社の口座に入庫しなかったなどの理由により、特別口座において管理されている株式につきましては、三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
未払配当金の支払について	株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。



株主の皆さまへのお知らせ

株主の皆さまのご意見を今後の経営およびIR活動に役立てていくため、昨年に引き続きアンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。

詳細は同封のアンケート用紙をご覧ください。

※アンケートは、単元株主の方に限定させていただいております。

回答方法

同封のアンケートハガキにご記入の上、郵送してください。なお、ご記入後はプロフィール部分の上に付属の個人情報保護シールを貼付け投函していただきますようお願いいたします。ご意見をいただいた株主様に、3月上旬を目途に1,000円分の図書カードを贈呈させていただきます。

締切日

2022年1月31日(消印有効)

音を科学する

「音」を科学することで
様々な製品を
生み出してきたリオン。
このコーナーでは
「音」の不思議な力、
素朴な疑問を
紐解いていきます。

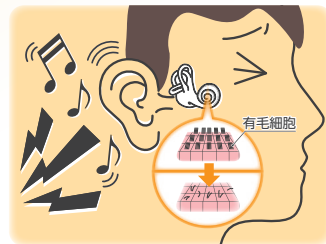
有毛細胞(ゆうもうさいぼう)が感知する音の振動

人が音を捉える聴覚神経は、内耳にあるかたつむりの形をした「蝸牛(かぎゅう)」と呼ばれる器官に収められています。蝸牛の中はリンパ液で満たされており、聴覚神経はそのリンパ液に浸っています。聴覚細胞には、毛のように見える細い突起があるので「有毛細胞」と名付けられています。

鼓膜の振動は、耳小骨(じしゅうこつ)によって蝸牛に伝えられ、蝸牛の中のリンパ液を震わせます。リンパ液内に突起を出している有毛細胞がその震えを感知し、刺激が電気信号として脳の聴覚中枢に送られます。

耳小骨は、鼓膜が捉えた音の振動エネルギーを効率よく内耳に伝える役割を果たします。また、極端に強い音が耳に入ってきた時に、耳小骨とそれを支える筋肉組織が瞬時に反応し、内耳への音の伝わりを抑える機能もあります。

顕微鏡で見ると、健全な状態の有毛細胞は、水田の稲のように規則的に整列していますが、強烈な音にさらされた有毛細胞は、損傷を受けて抜け落ちてしまいます。この状態では、音を正常



に聴くことができず、いわゆる難聴の症状が起こります。そして損傷を受けた有毛細胞は、二度と元に戻りません。音楽であれ、機械の騒音であれ、極端な大音量を繰り返し聴くような状況は、難聴になる危険性があるので用心が必要です。

出典：山下充康著「謎解き音響学」(丸善)

株主優待制度のご案内

期末配当基準日(3月31日)現在の株主様を対象に株主優待を実施しております。

ジェフグルメカード(食事券)



100株以上 ▶	500円分
500株以上 ▶	1,500円分
1,000株以上 ▶	3,000円分
5,000株以上 ▶	5,000円分
10,000株以上 ▶	10,000円分

【追加】100株以上かつ3年以上継続保有* ▶ 1,000円分

※同一の株主番号で、毎年3月末と9月末の株主名簿に7回以上連続で記録された株主様を3年以上継続保有とみなします。

リオネット補聴器購入割引券



100株以上

※メーカー希望小売価格の
10%割引
(片耳購入の場合は1台分)
(両耳同時購入の場合は2台分)

有効期間：1年間

リオン株式会社 〒185-8533 東京都国分寺市東元町3-20-41
TEL.042-359-7830(リオン株式会社 企画部 IR広報課)

<https://www.rión.co.jp>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

